

社会課題の解決に民間企業が果たす役割への期待が高まっている。SDGsへの貢献を掲げる企業2社と、開発途上国の国際協力に長年取り組んできたJICAが、本業としてのビジネスを通じた社会課題の解決や異業種間パートナーシップの可能性について議論した。

企業と共に SDGs について考え、進む



独立行政法人国際協力機構 (JICA)
企画部SDGs推進班 参事役

紺屋 健一さん

社会課題に挑戦する企業

紺屋 JICAはSDGsの達成のために民間企業や市民社会とのパートナーシップを強化していきたいと思っています。損害保険ジャパン日本興亜株式会社は、気候変動による農業生産の損害に対応する「天候インデックス保険」をアジアで展開されています。キリン株式会社はアルコール販売事業を行っていることからSDGsのゴール3の「健康」に注目されていますよね。それぞれの取り組みを、ご紹介いただけますか。

指標を事前に定め、その条件を満たした場合に保険金を支払う仕組みです。一般的に知られている火災保険などは、損害の程度を実際に確認した上で、お支払いする保険金の額を確定しますが、天候インデックス保険は事前に定めた天候指標を基に条件を満たした際に定額の保険金をお支払いするため、損害発生時に被害状況を確認する必要がありません。よって、お客様にとっては保険金額が事前に分かる上、早期に受け取れることがメリットとなります。東南アジアでは国内総生産(GDP)に占める農業の割合が高く、気候変動の影響は国全体に被害を及ぼしま



SOMPOホールディングス株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
CSR室 特命課長

小川 慶章さん

「新しいこと」と気負う必要はない?

紺屋 健康領域を中心に、さまざまな取り組みをしているのですね。お二人は、SDGsはビジネスの拡大につながるかと考えていますか。

森田 キリンはSDGs採択を機に新たに事業を展開したわけではありませんが、自分たちの仕事をSDGsの文脈で捉え直すことで、グローバルに貢献している実感を持っているようになったのは確かです。まずは日々の仕事の中で社員がそう感じられる局面を増やしていくことが大事ではないでしょうか。「SDGsのために何かやらなければいけない」ではなく、「事業を通じて貢献

ットメントはSDGsを意識していません。中でも注力しているのは「健康」です。当社のグループ会社に医薬メーカーの「協発発酵キリン株式会社」があり、医薬とバイオケミカルの分野で研究や商品開発を行っています。この先端医薬の技術も生かしながら、飲料メーカーとして、おいしい飲み物による未病・予防領域での貢献から医薬品による罹患後の治療まで、一貫してお客様の健康を支えられる点が当社の強みです。

社内でSDGsをどう広めていくか

紺屋 「途上国やSDGsについてよく知らないから何をすれば良いかわからない」と悩んでいる企業も多いようです。

小川 私はSDGsを前提に商品を開発しようとする必要はないと思っています。なぜなら、本業を通じてSDGsへの貢献は、あくまでも自社の強みを伸ばしていった先にあると考えるからです。当社では経営陣

携してみると、自社で従来の枠組みの中で考えていたときよりも大きな効果や新たな価値を生み出せるものですよ。

森田 今年、スリランカとミャンマーを訪れました。その際、各所で現地の方からJICAの協力の話を伺い、開発途上国におけるJICAの存在感は計り知れないと実感しました。途上国ビジネスでJICAと組めば、その効果は最大化されると思います。

紺屋 企業の方々にとっては、法律の未整備などが気になると思いますが、JICAはそうした途上国ビジネスのリスクを低減してくださるだけでなく、ビジネスの社会的価値を最大化する段階でも企業と連携していきたいと思っています。

パートナーシップの可能性

紺屋 自社内での取り組みに加えて、パートナーシップを組めばより大きなインパクトが生まれ、利益にもつながるのではないのでしょうか。JICAに期待することがあれば教えてください。

小川 タイ以外の農業国でも天候インデックス保険を役立ててもらいたいので、JICAの農業分野の部署と連携していきたいですね。当社か

らも情報提供ができるのではないかと思います。インドネシアでは、子どもの支援を専門とする公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと協働し、子どもが巻き込まれる交通事故が多発しているバンドン市で小中学生とその保護者、教職員を対象に交通安全教育を行っています。約3万人の方に参加いただいている他、学校周辺の交通安全設備の

企業から見たSDGsの可能性と課題

小川 今年の新社員に2030年の日本社会において当社ができることを考えてもらったところ、介護分野で事業を展開し、成功事例を海外に広げるといった意見が複数出ました。既存の保険事業の枠を超えたアイデア、かつ世界に貢献しようという感性は私の世代の入社当時にはなかった視点です。彼らには今後の取り組みの推進力として期待しています。

森田 私も大学などで講演する機会がありますが、今の若い世代はフェアトレードやエシカル商品、地球の未来への関心が高いと感じます。一方で、広く消費者にSDGsやCSV

の視点が浸透するまでにはまだまだ時間がかかると思っています。その原因の一つは、こうした潮流に対するメディアの関心が薄いこと。自社ホームページと商品だけでは、本業を通じて社会価値創造の実態を十分かつ直接的に理解してもらうことは難しいのが現状です。

紺屋 お二人から若い世代への期待という話が出ましたね。企業とJICAが連携して、SDGsや社会貢献事業に関する社内教育を実施することもできるかもしれませんね。啓発から事業まで、幅広く協力関係を構築していったらと思っています。



キリンホールディングス株式会社
グループCSV戦略担当主幹

森田 裕之さん